

しんぼう強い子、まじめで礼儀正しい子、なかよく助け合う子、からだを鍛える子



しらとり

URL <http://www.sea.icn-tv.ne.jp/~shimasyo/>

周防大島町立
島中小学校
第14号
令和5年11月15日

飛び出せ！ 島中太鼓



校長 川西 真理

11月7日(火)に周防大島町音楽祭が開催されました。本年度、島中小学校では、演目をこれまでの「合唱」から「島中太鼓」に変更しました。主な理由は「島中太鼓を披露するのがふれあい発表会1回だけではもったいない」ということと児童数の減少による「児童の負担」を考慮しての決断でした。

しかし、同じ島中太鼓を練習するにしても、児童の戸惑いは大人の想像以上で、「島中太鼓は、地域の方の前で演奏するもの」という固定観念が不安を増大させたようです。確かに、ふれあい学習発表会や愛和苑での演奏は、応援してくださる地域の温かい雰囲気につつまれて安心できるいわば「ホーム」の環境です。かたや、音楽祭での演奏は、児童にとっては「アウェイ」な環境なわけです。

「リズムがあわない」「それぞれの太鼓の音量のバランスがとれていない」「楽譜をおぼえきれない」・・・今年も様々な困難が児童を待ち受けていました。しかも、児童が闘う(演奏する)場は完全な「アウェイ」。甘えや言い訳は通用しません。そんな中で、昼休みの練習、音源の入ったiPadを家に持ち帰っての練習など、自主的な練習が徐々に広まり、昼休みには「いる人だけであわせてみよう」等の子どもたち同士の積極的な声かけもでてきました。全体練習の際にも、リーダーを中心に、演奏をする度に、自分たちで振り返り修正しようとする真剣な姿も見られるようになりました。練習を積み重ねても、なかなか取り除くことはできない不安と闘い、たどり着いた本番の舞台でした。そこには、仲間を信じ、一心に太鼓を叩く児童の姿がありました。

講師の先生からは、「堂々とした態度が立派だった」「音楽祭のオープニングにふさわしいステージだった」「他の人を信頼し『合わせる』ことができている」「リーダーのテンポ感が的確だった」「太鼓の中心を捉え『鳴るポイント』を押さえている」等、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。

ダーウィンの有名な言葉に「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一、生き残るのは変化できる者である」というのがあります。今回島中太鼓を引っ提げて地域を飛び出したように、これからも変化と闘い、変化を乗り越えることのできる島中小学校の児童であってほしいと改めて感じました。



地震・津波避難訓練・地域ピカピカ大作戦

11月1日（水）に、ひらい保育園、周防大島町日良居庁舎職員、地域や保護者の方と合同の地震・津波を想定した避難訓練を行いました。

今年度は、震度4、津波到着を1時間後と想定したところ、全員の避難完了まで16分という短時間で避難ができました。児童の振り返りアンケートでは、全児童が「避難訓練は自分の命を守るために必要だ」と答えており、命の大切さを理解し訓練に真剣に取り組んだ様子がうかがえました。また、この避難訓練には多くの地域の方が参加してくださいました。ご協力ありがとうございました。

避難訓練後、第5回「地域ピカピカ大作戦」を実施しました。今回は、学校周辺の落ち葉拾いを行いました。児童が掃除をしていると「ありがとう」と通りがかりの方に声をかけていただきました。今後も微力ながら地域に貢献できればと考えています。



2年生の避難する様子



園児と手をつないで避難（3～6年生）



地域ピカピカ大作戦

持久走大会に向けて



12月5日（火）の持久走大会に向けて業間時間の持久走練習が始まりました。持久走は、長い距離を走ることで、体力の向上を図ることを目的に行います。また、それと同時に「粘り強さ」を身につける機会だと考えています。練習では、他人と比べるのではなく昨日の自分に克てるように声をかけています。

子どもたちには、意欲的に取り組むように持久走カードを配布しています。持久走カードに印をつけようと登校後、すぐに運動場に出て練習をする児童も見られました。

今年も保護者・地域の皆様の応援をよろしく願います。



講堂での持久走練習

～地域の方のご協力に感謝～

10月31日（火）に5・6年生が家庭科で地域の方4名のお手伝いをいただき、ミシンを使ってのエプロンづくりをしました。地域の方は、ミシンの使い方や縫い方など、教師一人ではなかなか行き届かないところを懇切丁寧に教えてくださり、児童もそれに応え頑張って作品を仕上げることができました。

